

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）中間評価結果

大 学 名	立命館アジア太平洋大学
タ イ プ	B - I
構 想 名	APU-SEU グローバル協働教育プログラム—入学前教育から大学教養・専門教育まで

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>申請時の構想に沿って、プログラムが順調に実施されており、全体として事業目的の達成に向けて真摯な取組が認められる。具体的には、eポートフォリオの導入、事前及び事後授業（学習）の徹底、英語力の事前・事後アセスメント、個別アドバイジングによる学生支援、バディ制度による授業外での学びの機会提供など、他大学に対しても参考となる取組が実施されている。また、入学前留学プログラム、立命館アジア太平洋大学（APU）とセント・エドワーズ大学（SEU）双方の教員による協働科目の提供、APUとSEU双方の学生によるタイ、マレーシアでのフィールド調査など、先導的な取組が着実に実施されており、事業目的が先駆的なものであるにも関わらず、中間評価時点において、高い水準で進められていることは評価できる。</p> <p>単位換算方法や成績評価方法など、APUとSEUで異なる制度については、両大学間で十分な協議・調整を行った上で実施されている。また、両大学の教員が、eポートフォリオの共同活用、バディ学生の育成、プログラム終了後の継続した指導などで緊密に連携し、プログラムの事前・実施中・事後を通して教育の質向上に努めていることが認められる。更に、ダブル・ディグリー・プログラムにおける単位認定の時期を帰国後一括ではなく、毎セメスター終了後に変更予定であること、SEUの夏季休暇時期に実施しているグローバル・コミュニケーション・プログラムにおいてはSEU周辺に滞在しているSEU学生を対象としてバディ募集を行うことなど、実施段階で柔軟かつ細やかな対応策を講じていることは高く評価できる。</p> <p>日本人学生派遣のための環境整備では、派遣前・留学中・帰国後に亘って一貫した支援が行われ、当初の計画を上回る手厚い支援体制が整えられている。APU-SEU協働プラットフォーム（GLUEラウンジ）をeポートフォリオ上で開設するなど、学生に対する個別アドバイジングとサポート並びにアウトカム・アセスメントへの先駆的な取組がなされている。キャリア教育にも力を入れており、今後はダブル・ディグリー・プログラム開始に伴い、インターンシップや就職支援でも成果が上がることを期待される。</p> <p>学生の受入と派遣については、数値目標をやや下回ったが、その問題に適切に対応し、数値目標達成のための改善策が取られている。その結果、プログラムの応募者数は次第に増加しており、今後の改善が見込まれる。</p>